



SANO NIHON UNIVERSITY  
SECONDARY SCHOOL



[ 広報 ]

# わかざくら

W A K A Z A K U R A

vol. 59  
2022. 3. 1



制服に別れを告げ…

## 目次

卒業式式辞（校長）	P 2
卒業式告辞（理事長・学園長）	P 3
卒業生各賞受賞者	P 4
研修旅行	P 5
輝く仲間たち	P 6

佐野日本大学中等教育学校  
栃木県佐野市石塚町2555 ☎ 0283-25-0111(代)  
<http://ss.sanonihon-u-h.ed.jp/>

# 卒業式にあたって



## 光り輝く人生を

校長 船渡川 重幸

厳しかった冬の寒さも緩み、春の訪れが感じられるようになりました。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの卒業を、教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。皆さんが、6年前、新しい学校生活への期待と不安を胸に、ここプラザ40で入学式に臨んだ姿を、私は今でも忘れません。入学してから今日までの6年間の学校生活はいかがでしたか。さまざまな思いが今、皆さんの脳裏をよぎっていることと思います。特に皆さんは、6年間の学校生活の集大成である最後の2年間が、新型コロナウイルス感染症の影響によって、日常生活を大きく制限されるといった、これまで経験したこともない日々を過ごすこととなりました。しかし、一人ひとりの努力と工夫で苦勞を乗り越えたからこそ、本日迎えた卒業式は感慨もひとしおのことと思います。今ここに、皆さんが昂然と胸を張った姿を見ると、本校での6年間で立派にやり遂げた充実感と、これから始まる新たなステージへの覚悟を感じ取ることができ、本当に頼もしく思います。

さて、これから皆さんが進んでいく世界は、現在より更に変化が激しく、予測が難しい時代になると言われています。人工知能（AI）や情報技術などの科学技術の発達、これから先、私たちの生活をどこまで変えていくかわかりません。その一方で、環境破壊や気候変動、そしてそれに伴う自然災害が日本を含め世界のいたるところで起こっています。また経済格差や地域紛争など、グローバルな視点で解決に取り組んでいかなければならないことがたくさんあります。そこで、新たな船出をする皆さんに大切にしてほしいことをふたつ、お伝えしたいと思います。

一つ目は、「志」と「目標」を掲げるということです。夢や希望という段階では、まだ具体性がありませんが、志と目標には、厳しいチャレンジとそれに伴う失敗や挫折が含まれています。具体的に動けば具体的な答えが出ます。それは人生における貴重な学びなのです。自分の年齢を3で割ると、人生を一日の時刻になぞらえるそうです。皆さんは18歳ですから3で割れば6、つまり一日で言えば、午前6時です。太陽が昇り、一日の活動が始まる時間です。皆さんはまさに人生はこれからというところにいるのです。ある研究によれば、2007年に生まれた日本の子どもの2人に1人が107歳より長く生き

るそうです。人生100年時代を生きる皆さんは、いままで以上に、自分は何を大事にし、どんな生き方をしたいのかを、志と目標を持って、具体的に考えて生きていくことが大切だと思います。

二つ目は、「出会いを大切に」ということです。慈愛と休息を与えてくれた家族、励ましと勇気をくれた先生、苦しい時に支えてくれた友、感銘を受けた書物、心を震わせるような美しい音楽や風景、そして反省や成長のきっかけとなった辛い出来事。振り返ってみれば、人生とは出会いの連続に他なりません。これからも皆さんには、生涯の友や目標にしたい人など、それまでの自分の生き方を根底から変えてしまうような大きな出会いが待っているかもしれません。そういった体験がある人は、どんな困難や試練があっても、生きる張り合いや自信を持って生きていくことができます。「出会い」を大切にすることは人生を豊かに充実させることのできる人なのです。どうか素晴らしい「出会い」をしてください。

ここで、私が学生時代に会った、アメリカの詩人、サミュエル・ウルマンの詩「青春」の一節を皆さんに贈ります。

青春とは人生のある時期を言うのではなく、  
心の姿を言うのだ。

すぐれた創造力、たくましく意志、燃ゆる情熱、  
卑怯を退ける勇猛心、安易をふり捨てる冒険心。

こういう姿を青春というのだ。

年を重ねただけで、人は老いない。

理想を失う時に初めて人は老いる。

歳月は皮膚のしわを増すが、

情熱を失う時に精神はしぼむ。

希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる。

大地より、神より、人より、

美と喜び、勇気と壮大、偉力と靈感を受けている限り、  
人の若さは失われない。

私は、この詩は、無限の可能性を秘め、新たなスタートを切る皆さんにエールを送っているように思えてなりません。どうか、「志」と「目標」を持ち、一つ一つの出会いを大切に  
して光り輝く人生  
を歩んでください。  
皆さんのこれからの活躍  
とご発展を心より  
祈念して、式  
辞といたします。  
卒業おめでとう。







## 不確実な時代を、 たくましくしなやかに生きる

理事長 長谷川 弘

突然の全国一斉休校が私たちを驚かせてから2年、新型コロナウイルスの感染拡大は、社会経済のみならず学校教育にも大きな影響を与えました。学園はその間、「パンデミックは危機管理である」と認識し、「学生・生徒と教職員の生命と健康を守る」、また「教育を確実に学生・生徒に届け続ける」ことを最優先課題に、最大のダメージも想定される中で最小限のダメージにとどめてきたものと思っています。

さて、デジタルテクノロジーが目覚ましい進化を遂げる現在、社会のさまざまな分野でデジタルトランスフォーメーション（DX）が推進されています。それは教育の現場も例外ではなく、変革の波が押し寄せています。また近年、海外子女の半数以上が日本人学校ではなく現地校やインターナショナルスクールに通学し、保護者が望む教育でも「日本と同等の教育」は2位に後退、「在外ならではの多様な経験」がトップとなりました（海外子女教育振興財団実施のアンケートより）。このデジタルテクノロジーによるDX化と教育の多様性への強い志向は、学校へのニーズが根本的

に変化したことを示唆しているように思えます。既存の価値観が覆るゲームチェンジが、学校教育でもまさに起ころうとしているのです。

私たち私学は、この時代の大きな流れに乗り遅れるわけにはいきません。変化に対応する経営戦略と、それを実行できる体制、組織の再構築が不可欠です。たとえば、従来のトップダウン型組織に多い「野球型」ではなく、教職員一人ひとりの自律性を重んじ、主体的な行動を促進する「サッカー型」によるマネジメントを重視していくなど、変化に機敏に対応する方策が求められます。

学生・生徒の皆さん、このような変化が激しく予測不可能な時代にあっては、その不確実性にどう立ち向かうかが大きなテーマとなっています。予測の範囲を超えた事象への対処には、データサイエンスの知識もあわせて、知性を高め多角的にものを見る力が必要です。そして優れたイノベーションは、さまざまなバックグラウンドを持つ人たちが意見をぶつけあうことで、はじめて生まれるものなのです。学園の各学校は、探究的な学習・研究を通じ、正解のない問題の解決策を考え抜くための「たくましい知性」と、ダイバーシティの発想に基づいた「しなやかな感性」の涵養に力を注いでいます。この学園で学び、そのような力を身につけた皆さんは、自信をもって広い世界へ泳ぎだしてください。

卒業生の皆さんの幸福な前途を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 言葉で支え合い、 複雑さに立ち向かう力を

学園長 浦田 奨

新型コロナウイルスの感染拡大は世界中の人々の生活を一変させ、社会経済に甚大な影響を与えました。しかし一方でテレワークの普及や学校教育のICT化が急速に進むなど、時間的・空間的な制約を超えたつながりを生み、人々の意識や社会のありかたを再考する契機となりました。

さらにその流れは社会のデジタル化を加速させ、ICTのみならずロボティクスやAI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）の先端技術を活用することで、現在の超少子高齢・人口減少社会への対応が次々と実用化されています。介護者の負担を軽減しながら受ける側の自立支援にも貢献する介護ロボットの導入、スマート農業の普及、自動運転技術の開発など、雇用が機械に奪われていく可能性も含めて社会経済の劇的な変化が予測されます。また地球規模でも、米中対立を中心とした国際情勢の基軸が気候変動対策へ移行し、石油ではなくEVや燃料電池、半導体などの技術開発にどの国が勝利するのかで、世界秩序は大きく変化し

ていくと言われます。多くの状況が複雑に絡み合う中、あらゆる課題の解決が可能とされるソサエティ5.0（超スマート社会）へ向けて世界は走り続けているのです。

このように現代社会は複雑さを極め、正しい判断を得ることがますます難しくなっています。そこで大切になるのは、拡散する膨大な情報から自分に必要なものを取捨選択し、自分の頭でしっかり考える姿勢です。そしてそのためには周囲の人たちと互いに心を支え合い、次々に求められる決断に対処する勇気を持つことが大切です。

皆さんは、学園で過ごしたこの数年間で、保護者や多くの先生方、友人たちとかけがえのない時間を過ごしてきました。そしてその方たちから多くの言葉ももらい、その言葉によって生かされてきました。温かい励ましは人に挑戦する勇気を与え、ほんのわずかな気遣いの言葉が、絶望の淵にある人の人生を救うこともあります。入学からこれまでの日々を思い返し、自分を支え続けてくれた人たちの言葉を思い返してみてください。言葉とともに、多くの笑顔がそこにあるのではないのでしょうか。今、大きく成長した皆さんは、その人たちが与えてくれたものをしっかりと返していく時を迎えています。

学園を巣立つ皆さんが、複雑さを極める時代に力強く立ち向かい、温かい言葉で多くの人と支え合いながら、すばらしい人生の時間を積み重ねていかれることを祈念して、はなむけの言葉といたします。

# 令和3年度 卒業生 各賞受賞者

## 日本大学学長賞 (学業部門)



渡邊 日菜詩  
(久喜・砂原小)

## 佐野日本大学学園理事長賞



五十嵐 蒼生  
(館林・第一小)



麦倉 舞  
(栃木・岩舟小)



齋藤 翼羽  
(太田・菫川小)

## 佐野日本大学中等教育学校校長賞



亀田 一成  
(佐野・出流原小)



山中 南乃  
(高崎・新町第一小)



大西 優衣  
(足利・南小)



長谷川 美新  
(栃木・三鴨小)

## 日本私立中学高等学校連合会会長賞

## 高校生新聞社賞

## 三か年皆勤賞

- \*五十嵐蒼生  
安田 琢真 (館林・第十小)  
川原井麻衣 (栃木・岩舟小)  
関根 陸斗 (加須・加須南小)
- \*飛田 悠介 (加須・不動岡小)
- \*田中 瑞貴 (佐野・赤見小)
- 遠藤 柊佑 (羽生・羽生南小)
- \*遠山 陽彩 (古河・古河第四小)

\*の卒業生は六か年皆勤

## 三か年精勤賞

- 栗林 龍希 (ぐんま国際アカデミー初等部)
- 麦倉 舞
- 矢内 美羽 (小山・城東小)
- 井野 巧大 (桐生・広沢小)
- 亀田 一成
- 藤島 涼太 (足利・けやき小)
- 小野田早希 (館林・第八小)
- 渡邊日菜詩
- 朝日 陽星 (ぐんま国際アカデミー初等部)
- 大森正太郎 (栃木・栃木中央小)
- 齋藤 翼羽
- 小久保朱莉 (羽生・羽生南小)
- 相田 優美 (佐野・佐野小)
- 井腰そよ花 (佐野・赤見小)
- 小倉 史愛 (佐野・植野小)
- 常盤 菜月 (足利・山前小)
- 中村 咲月 (壬生・壬生北小)
- 細野 巧樹 (佐野・界小)
- 大西 優衣
- 小川 翔躍 (宇都宮・豊郷南小)
- 黒坂 瑠育 (館林・第十小)
- 内田 凧咲 (小山・間々田東小)

## 栃木県高等学校文化連盟賞

中村 咲月

## 栃木県合唱連盟賞

山中 愛遥 (小山・小山第三小)

## 部活動功労賞

合唱部  
山中 愛遥  
和太鼓部  
井腰そよ花

## 部活動努力賞

水泳部  
小久保朱莉  
大西 優衣

サッカー部  
井野 巧大

バスケットボール部  
亀田 一成  
朝日 陽星  
細野 巧樹  
小野寺智也 (バンコク日本人学校)  
内田 凧咲

英語研究部 (SELG)  
吉田 莉瑚 (加須・加須小)

ディベート部  
矢内 美羽

ロボット部  
大森正太郎

数学研究同好会  
染谷陽沙武 (作新学院小)

## 書道同好会

中村 咲月  
遠山 陽彩

## 華道同好会

門倉 舞依 (熊谷・大幡小)

## 感謝状

## 生徒会

朝日 陽星  
五十嵐蒼生  
川原井麻衣  
齋藤 翼羽  
山中 南乃  
渡邊日菜詩  
渡邊 瑞樹 (佐野・界小)

## 浦田教育基金 学園創立60周年記念事業募金

本学園では、浦田教育基金並びに、学園創立60周年記念事業募金のご協力をお願いしております。皆様からお寄せいただきましたご厚意は、生徒学生の奨学金及び、本学園の教育・施設設備等に活用させていただきます。今後とも、本学園へのより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### ～ご寄付賜りました法人様・団体様～

青木設備工業株式会社様、株式会社安藤設計様、池頭塗装株式会社様、株式会社岩澤自動車様、株式会社SN様.com様、有限会社オクサワ商會様、有限会社神永写真館様、株式会社川田サッシ工業様、有限会社協伸建設様、株式会社グンエイ様、さくら総合サービス株式会社様、佐野ガス株式会社様、篠崎木工株式会社様、株式会社ジャパンビレッジ様、秋栄堂印刷株式会社様、株式会社セキコー様、有限会社地中海料理アンドラ様、株式会社徳川組様、TOP EMOTION 株式会社様、株式会社永沢緑花苑様、有限会社新里教材店様、日星石油株式会社様、有限会社ノザワスポーツ様、株式会社ハクエイエンタープライズ様、株式会社フォー・エックス様、株式会社娘屋様、やじま印刷株式会社様、有限会社ヨコタスポーツ様  
(令和3年3月～令和4年2月 五十音順)

なお、個人の皆様からも多数のご寄付をお預かりいたしました。ご本人様からのお申し出により、ご芳名の掲載は控えさせていただきます。



# 5年生 研修旅行 和歌山・奈良・京都

12月14日(火)～17日(金)



12月14日(火)～17日(金)、和歌山・奈良・京都において5年生の研修旅行が3泊4日で行われた。

1日目は羽田空港から飛行機で和歌山県に向かい、アドベンチャーワールドでパンダやペンギンなどを見学した。その後、グラスボートに乗船し、美しい海中を楽しんだ。

2日目は世界遺産である熊野古道を「語り部」と呼ばれるガイドと共に約7時間かけ全員で歩いた。過酷な1日となったが、力を合わせて乗り切ったことで、仲間との絆がさらに深まった。

3日目は奈良市内を班ごとに自由に散策した。和菓子作りや着物体験などのアクティビティを体験することもできた。

4日目は見学班と体験班の2班に分かれて、京都を訪れた。見学班は金閣寺を見学し、美しい建造物と自然を楽しんだ。体験班は座禅を行い、自分と向き合いながら心穏やかな時間を過ごした。

仲間と協力した熊野古道、たくさんの経験をした奈良・京都、心に残る研修旅行となった。



## 1年生 スキー教室 猪苗代

1月12日(水)～14日(金)

1月12日(水)～14日(金)、福島県猪苗代町において、1年生のスキー教室が行われた。

雪の降る中、猪苗代スキー場にて3日間、初心者コースから上級者コースの7班にわかれ、スキー技術を習得した。スキー初体験の生徒はインストラクターの指導の下、練習に励み、最終日には上手に滑ることができるようになった。経験者の生徒はインストラクター、仲間と一緒に滑ることでスキーの技術を向上させた。

スキーを通じて友人との絆がさらに深まり、心身も鍛えられた初めての宿泊研修となった。





持続可能な社会の実現に向けて—  
**エコプロ2021**

12月8日(水)、東京ビッグサイトで開催された「SDGs Week EXPO 持続可能な社会の実現に向けて—エコプロ2021」に1年生が参加した。



エコプロ2021では、企業、自治体などによる環境やSDGsへのさまざまな取り組みを紹介し、多様な視点からサステナブルな社会の実現が提案された。地方創生×SDGs、プラントベースワールドなどのテーマゾーンが設けられ、脱炭素社会を目指す取り組みや、産官学民それぞれの視点からSDGsの実現に向けた課題解決の取り組みが紹介されていた。生徒はそれらの展示を興味深く見学した。

また、翌日からは、グループ毎にエコプロで学習した内容をまとめ、ポスターを作成し掲示した。さらに、各自でレポートを作成し、クラスでプレゼンテーションを行なった。1年生は、これらの体験からSDGsの理解をさらに深め、自分たちができる取り組みについて、発展的に考えられた。

**租税教室**

1月26日(水)、4年生を対象に租税教室を実施した。税理士の田口裕太先生を講師に招き、「税金の平等性と税理士の仕事」をテーマに、各教室でMeetを活用したオンライン講演が行った。

税の使い道が分からないと思う人は少なくないが、今回、私たちの生活を維持する上でとても重要であると税の役割について理解を深めることができた。また、税理士の仕事に触れることができ、キャリア教育としても効果的な講演となった。



**「海を探る、海を調べる、キャリアと研究Ⅵ」  
中学生高校生海洋生物学シンポジウム**

2月1日(火)、「中学生高校生海洋生物学シンポジウム」が実施された。このシンポジウムは、海洋生物学アウトリーチ研究会・成蹊学園が主催するものであり、昨年同様、今回もZoomで実施された。オンラインで東京大学・猿渡敏郎先生をはじめとした教授陣の講義を受け、受講後、先生方と世界各国から参加した中高生との交流会が行われた。本校からは15名が参加した。質疑応答を通して興味関心をさらに深めることができた。海洋生物を通して、気候や地質など多様な分野との関わりを学ぶことができた。



**「トンガ大洋州噴火津波」募金活動**



生徒会とGLOBEが中心となり、トンガ沖での海底火山噴火への募金活動を行った。この噴火でトンガをはじめとした周辺国が多大な被害を受けた。本校の姉妹校や交流校があるオーストラリアやニュージーランドでも被害が確認された。

トンガは東日本大震災の際に、いち早く義援金や物資で支援してくれた国であり、その恩に恩を返したいと募金活動を行った。義援金は日本赤十字社を通じてトンガへ送られた。

**輝く仲間たち**

**日本大学付属高等学校等第38回文芸コンクール**

小説の部

佳作 大木 眞希 (5年・小山・小山城東小)

読書感想文の部

佳作 新井 康太 (5年・みどり・笠懸小)

磯貝 心春 (5年・佐野・犬伏東小)

**第58回全日本書初め大展覧会**

日本武道館賞 居上 真実 (4年・佐野・赤見小)

**憲法改正問題に取り組む全国アクションプログラム**

**第5回「こども憲法川柳」**

佳作 高田 亜実 (4年・佐野・天明小)

**第52回下野美術展**

絵画の部 金賞 坪内 千名 (3年・佐野・界小)

デザインの部 銀賞 人見 香音 (2年・佐野・犬伏東小)

**国土緑化育樹運動ポスター原画コンクール**

全国審査推薦 神山 美優 (2年・佐野・犬伏東小)

**編集  
後記**

6年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。グレーのプレザーに金色のボタン。この制服も今日が見納めとなる。「思えばいと疾し」とはよく言ったもので、過ぎゆく日々を数える時間よりも、それを振り返る時のほうがあつという間に感じるものだ。皆さんにも、隣の友や成長を喜んでくれる家族や先生方と過ごした大切な時間があるだろう。今日を節目とし、新たなステージでのご活躍をお祈りいたします。(長谷川記)

**広報わかざくら VOL.59**

佐野日本大学中等教育学校 栃木県佐野市石塚町2555  
☎0283-25-0111(代) <https://ss.sano-nichidai.jp/>